

意見広告

国民の8割以上がワクチンを接種し、すでにワクチンは一定の役割を果たしたと言えるだろう。しかし子どもたちへの接種については慎重さも必要かもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。



お子さんやお孫さんにワクチンを勧める前に

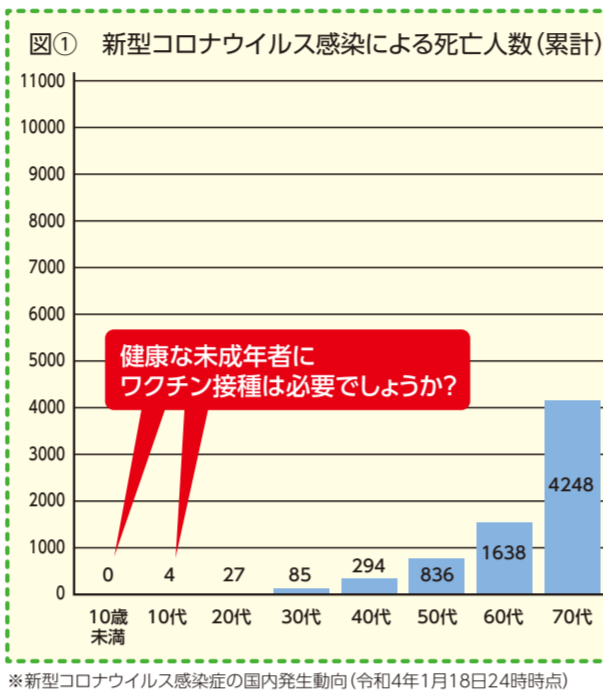
厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか？厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重度の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、**これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいないし、重症化もほとんどしていない。**（令和4年1月21日時点）

新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいく。未成年者へのワクチンが必要ないことは厚労省のデータから読み取れる。

ところが未成年者がワクチンを打つことにより、多くの重篤な（命の危険が迫っている患者のこと）や死亡者が出てしまっている。昨年10月30日には**13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴槽内で水没しているところを発見されている。**また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1606人にも上り、そのうち重篤者は387人、後遺症8人、死亡者は5人、20代も含めた副反応疑い報告が7006人、重篤者1000人、後遺症28人、死亡者32人にも上る。**すでに本末転倒な状況に陥っているのかもしれない。

この状況を招いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要なくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。



※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(令和4年1月18日24時時点)

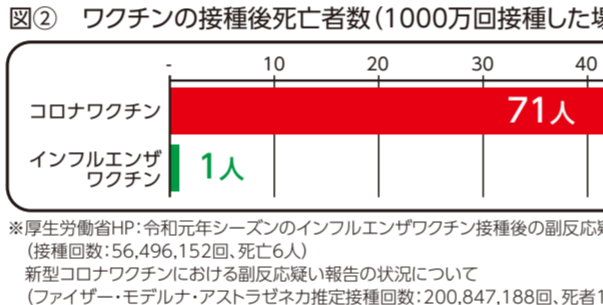
しかしその目的のために、子どもや若者連に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病理学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死者の中で、厚労省に報告した事例が、1月14日時点で**1444人**（ファイザー製1377人・モデルナ製66人・アストラゼネカ製1人）に達している。しかも**ワクチン接種会場で突然死亡した事例も含まれて**いる。しかも**因果関係を認めない**。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り**「現時点で、新型コロナ**

ワクチン接種と1400人超の死亡は本当に関係ない？

ワクチンの接種が原因で多くの人が亡くなったという**「これはありませぬ。」**という見解だ。そのうたとすると、死亡した人たちがワクチンと関係なく、その時点ではまだ何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にたまたまた大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか？（図②）その理由は「**たまたまの死亡**」ではないからと考えるのが普通では

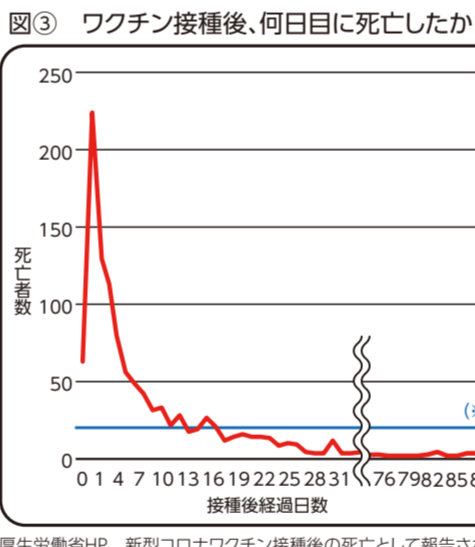


※厚生労働省HP:令和元年シーズンのインフルエンザワクチン接種後の副反応疑いの報告について(接種回数:56,496,152回、死亡6人) 新型コロナワクチンにおける副反応疑い報告の状況について(ファイザー・モデルナ・アストラゼネカ接種回数:200,847,188回、死亡者1438人/令和4年1月2日時点)

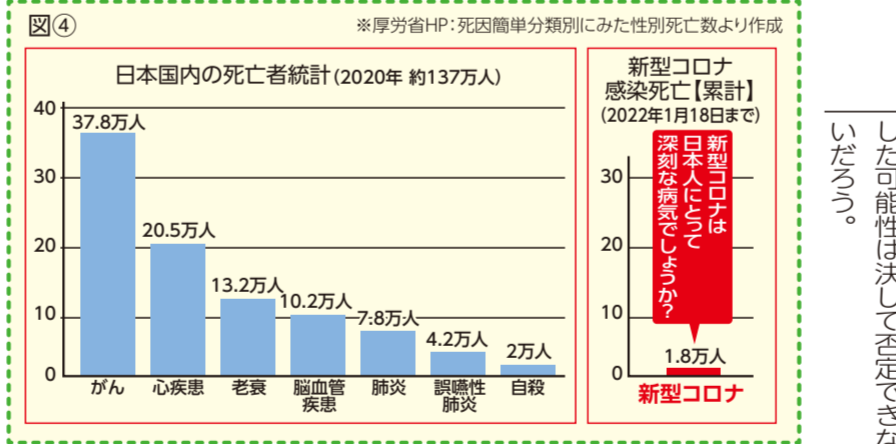
POINT!

- 厚生労働省HPに掲載されている**「コロナワクチン3つの事実」**
- ①インフルエンザワクチンと比べて、**接種後死亡が圧倒的に多い。**
- ②接種した翌日までに死亡した人が**圧倒的に多い。**
- ③接種後死亡者の死因は、**血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。**

「ワクチン接種」が原因で死亡した人がいるのでは？



※厚生労働省HP:新型コロナワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要(令和4年1月21日)より作成



※厚生労働省HP:死亡原因別性別にみた性別別死亡数より作成

厚労省はホームページに「ワクチンが直接的に不正性器出血(不正出血)や月経不順を起こすことはありません。」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の変化など

どの症状だけでなく、閉経したのが生理が再開したという副反応まで報告されていて、日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えている。ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

「長期的な安全性について特段の不安がある」と断言している。ところが事実とは違っていて、厚労省は「審議報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続を**「特別承認」**で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡り何が起きるかわからないまま接種を推し進めているのが現状だ。

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続を「特別承認」で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡り何が起きるかわからないまま接種を推し進めているのが現状だ。

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続を「特別承認」で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡り何が起きるかわからないまま接種を推し進めているのが現状だ。

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続を「特別承認」で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡り何が起きるかわからないまま接種を推し進めているのが現状だ。

わが子を守るの、あなただけ

おすすめ最新書籍(参考文献)

「簡単!10分で分かる新型コロナワクチンの危険性」

井上正康先生講演会動画

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 243,471,693円 (2021年11月30日～2022年3月10日9時10分時点)

ワクチン接種後に辛い症状が出た場合は…

すぐ「肺CT画像と血中Dダイマー」を検査し、不幸にも亡くなられた場合は「病理解剖」を依頼しましょう。ワクチン接種と副作用の因果関係は、情報不足で「不明」と処理されることがほとんどですが、「予防接種健康被害救済制度」を適用してもらうためにも強くお勧めします。

その他ワクチンに関する詳しい情報はこちら▶

<https://jcovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記二次元コードよりご意見・ご感想をお寄せください

mail@dbank.jp